



キリスト者の視点から見た「旧統一協会」の被害

総務局相談室長 小岩裕一

7月8日、衝撃的な安倍元首相の狙撃事件が起きました。許されない殺人事件です。容疑者は、「旧統一協会」の信者である母親の多額献金で一家が破産し、その「恨み」の対象が安倍首相に向けられ事件に発展したと報道されています。警備の問題、旧統一協会と安倍元首相や自民党など政治家との癒着問題、「靈感商法」問題、宗教二世の問題、被害者救済問題など、新聞、テレビ、週刊誌、ネットなどで消化しきれないほどの情報が流されています。

キリスト者の視点で「旧統一協会」だけではなく「異端・カルト問題」を考察しました。

1. 「深刻な被害」

靈感商法の被害は、総額1,237億円（1987年から現在）と公表されています。しかしこの数字は被害相談の金額ですから氷山の一角に過ぎず、実際の被害は総額2兆円以上と推計されます。旧統一協会は世界中に布教しましたが、日本だけが旧統一協会の主要な資金源となっています。「死に物狂い」で活動する日本人信者（推計6万人程）が旧統一協会を下支えしています。1967年「親泣かせ運動」、1980年代「靈感商法」、1992年「有名人合同結婚式」で、カルト宗教として世間を騒がせてきました。今回の事件で、旧統一協会の活動は「下火」になっていたのではなく、世間の常識を超える「深刻な被害」が続いていたことが明らかになりました。

キリスト者として、聖書を悪用する異端・カルトに関しては、いつも警戒し、注意喚起、予防と対策を怠ってはなりません。聖書を手にしながらか、偽キリストや偽教師にだまされ、人生を台無しにされ、救いを失ってしまう人たちがいること

を忘れてはなりません。真のキリストに立ち帰り、人生を回復することができるように祈りましょう。キリスト者の使命の一つです。

「私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです」（ヤコブ5・19-20）。

2. 「表」と「裏」の違い

2015年、文化庁は「世界平和統一家庭連合」への名称変更を認証しました。このことの政治的責任が問われています。旧統一協会は「悪」のイメージを払拭するために、必死に政治家に働きかけたと報道されています。名称変更は、異端・カルト集団の常套手段です。

「表」は、有名人や学者の賛同、ボランティア活動、社会的平和運動などで「善良なイメージ」を宣伝しています。しかし、「裏」は、多くの「ダミー（正体を隠した団体）」を形成しています。その団体、組織の全貌がわかりません。会計、人事、活動の「裏」が、「グレー」か「ブラック」なのです。「薄いグレー」だからと黙認していると、ますます濃くなっていきます。周囲の関係者は、慎重に吟味することが必要です。「表」は、キリスト教的、紳士的に見えても、「裏」では、異端的、暴力的な言動があるのが、異端・カルトです。同じような体質が、ハラスメント問題もあります。

「表」だけでの判断は禁物です。「裏」の旧統一協会は金銭問題、人権無視です（裁判判例）。

どんなに良いこと（事実だとしても）を宣伝していても、その「裏」がある場合は、くれぐれも要注意です。「裏」の隠されている部分に、その人やその団体の異端性、カルト性が見られるのです。慎重に冷静に、多方面から吟味して判断することです。

「偽預言者たちに用心なさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。あなたがたは彼らを実によって見分けることとなります。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるでしょうか」（マタイ7・15、16）。



教会だからこそ起こること

仁科早苗（ハラスメント窓口相談員）

最近出版された、「ハラスメントと教会の人間関係」（窪寺俊之著 いのちのことば社）にこうあります。

「ハラスメントには加害者の古い人権意識や体質に問題がありますから、これを変えるには、聖霊の働きが不可欠です。」

人権意識が古い、体質が古いとは一体何を示すのかは不明瞭ですね。自分が立っている価値観が果たして大丈夫であるのかと問われると、それはとても難しいことだと思います。しかし、「ハラスメントは自分には関係ないと思われたかたこそ要注意」だと言われています。

私たちの教団、教会にはハラスメントはないと考えている間は、実はハラスメントはもう起きているといっても過言ではありません。継続的な教育と啓発、個々人の意識変容を続けることがキリストの愛の共同体をつくるために絶対的に不可欠です。

ハラスメントとはいったい何を指しているのでしょうか。

広辞苑 第7版には、

「ハラスメント」とは人を悩ませること。地位や立場を利用した嫌がらせ。

と定義されています。

しかし、本人が自覚していなくても、受ける側が苦痛であれば、ハラスメントです。最近では「レリ

ジャスハラスメント」「スピリチュアルハラスメント」と言って、宗教指導者を加害者とする宗教ハラスメントも問題になっています。「信仰の正しさ」「祈りの足りなさ」「奉仕の未熟さ」を追求して相手を追いつめる事例があるようです。霊的指導とレリジャスハラスメントの線引きはいったいどこなのか、立ち止まって考える必要があります。霊的指導者の牧師の発言や振る舞いは他者（後輩牧師・信徒）にとって大きな力を持ち、場合によっては暴力とを感じる場合があることを心に留めておく必要があります。私たちクリスチャンが「変わることはない真理」を握ったことで、かえって傲慢になってしまう場合もあるように感じます。これまでキリスト教界内ではあまり触れてこなかった「パワーハラスメント」について教えられる文献も多く出ています。

「どうしても注意することを避けられないケースもあるでしょう。大切なことは、牧師・信徒を問わず、相手の気持ちを尊重しているか、牧師であれば、相手を主から託された羊として大切に受け止めているか。あるいは「主のため」という説明がついたとしても、信徒のことを、自分が自由に動かすことができる駒のように考えていないか、信徒であれば、牧師を主からいただいている羊飼いと大切にうけとめているか。・・・牧師同士でも同じです。つまり、ベースにある問題は相手の気持ちを理解しているか、相手を人間として尊重しているかということに尽きるのです。」（イムマヌエ

ル総合伝道団人権委員会・著、「聖なる教会を
目ざして ハラスメントを起こさないためには
どうしたらよいか」いのちのことば社、p19)

2022年からすべての事業所でハラスメント防止対策を取ることが義務づけられました。学校や会社で人権意識が高まっています。教会が無頓着のまま続けるならば、無念さを抱いて教会を去ってしまう人や声を出せずに苦しむ人を生み続けるでしょう。

教会は互いに尊重しあう場所で互いに理解しあう場所です。正論であっても押し付けてしまえば相手は拒絶するでしょう。人間は弱いのです。相手を支配したりコントロールしたりしてしまう弱さをもっていることを常に覚える必要があります。健全な奉仕は人を支配しません。「ハラスメントは誰にでも起こりうる」「教会の中だからこそ起こること」という意識を持ち続けたいと思います。



「終末」について

異端カルト研究室 小泉 創

「同じように、これらのことをすべて見たら、あなたがたは人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。」（マタイ24：33）

1. 不健全な終末観

2000年におよぶキリスト教の歴史の中で、終末論について関心が高まったのは、最近数十年ほどのことです。特にここ数年は、コロナウイルスによる世界的大流行、ロシアによる核攻撃へのおそれ、飛び交うフェイクニュース、旧統一協会が日本の政治に大きな影響を及ぼしていたことなど、不安を感じさせる出来事が多発し、「終末」という言葉が差し迫ったものとして感じられています。

終末には次にあげることをおおるような情報、働きがあふれています。気を付けなければなりません。

- ・終末に対する恐怖・切迫感
- ・終末への無関心
- ・患難（苦難）に対する備えを忘れさせる
- ・非キリスト教世界への神の愛の実践がおろそかになる
- ・再臨の日時を特定する
- ・ハルマゲドン（終末戦争）の不安をおおる

- ・にせ再臨主
- ・「預言」と称する無責任な言葉
- ・携挙への期待で現実生活がおろそかになる
- ・イスラエル中心主義（ディスペンセーション主義キリスト教シオニズム）によって、世界情勢を偏ってとらえる
- ・自分たちだけが神の御心を知っているという霊的高慢に陥る
- ・教会の分裂・分派を引き起こす
- ・非日常的で極端な生活をするようになる

2. 終末の悪の力と神の勝利

聖書からの終末の警告として、黙示録には、竜（＝悪魔）に従う獣、偽預言者、大バビロン（大淫婦）の働きが描かれています。それらが象徴するものは次のように理解できます。

獣：権力。軍事。暴力的な支配を地上の特定の権力に心酔すること、盲目的に信頼すること、暴力的な支配の中に入ることは黙示録で語られる獣に従うことです。

偽預言者：宗教的欺瞞。情報。偽キリストを指し示して、クリスチャンをも惑わすこと、情報の海も操作が加えられ、個人情報も管理される、ここにも偽預言者の姿を見出せます。

大バビロン：経済的誘惑。富。大バビロンは、経済的な支配力をふるい、人々の欲をかき立てます。グローバルな社会の豊かさを享受する一方で、世界的に貧富の格差が拡がり、知らぬうちに暴力的に搾取し、搾取される構造に組み込まれています。

これらのことは何千年も前から形を変えて、人類の歴史の中で繰り返し、人々を脅かしてきました。そして終わりの時のクライマックスに向かってますますその力を増しています。しかし神はキリストの十字架とよみがえりの勝利により、終わりの時の悪の力にも完全に勝利なさいます。神の力により頼むならば、悪の力をいたずらに恐れる必要はありません。

3. 終末の希望

終末をあらわすギリシャ語の「テロス（終わり）」とは、すべてが失われて無に帰することを不安に思うようなときではありません。「完成、ゴール、目的」、すなわち神によって世界の歴史が完成するときなのです。

ですから3世紀までの迫害下にあった教会にとっては、終末の希望こそが原動力でした。終末はキリストが再びおいでになる慰めの時だったからです。しかしキリスト教がローマの国教となったことで、クリスチャンを取り巻く状況は一変し終末論は軽視されるようになりました。それから長い間、終末論は顧みられることがありませんでした。確かに終末には、麦と毒麦のたとえにあるように、闇の力も強まり、苦難も増します。しか

し光の力もなお一層この世界に与えられます。最後にはすべての悪が滅ぼされてすべてが新しくされるという希望があります。ですからいつも目を覚まして、普段通りの落ち着いた生活を続けること。新しい世界の始まりを期待しつつ、与えられた使命として、この世界の中で神の愛を実践すること。患難の中にあっても、神が支えてくださることを期待すること。それが私たちクリスチャンに願われていることです。

神の民も歴史上、苦難の中に繰り返しかねながら、キリストにある希望に支えられて生きてきました。私たちもいざというときに苦難を恐れず、どこまでも主の御跡に従っていくために、ほふられた小羊であり、勝利の主であるキリストにのみ希望をおきましょう。そしていつも目を覚まして、落ち着いて与えられた日々を主と共に過ごしていきたいのです。

参考文献

- ・「百万人の福音」2018年4月号、特集「『終末』を意識して生きる」（いのちのことば社）
- ・ジョージ・エルドン・ラッド、「終末論」（いのちのことば社）
- ・安黒務、「『ディスペンセーション主義キリスト教シオニズム』病—その治療のための処方箋シリーズ」（Kindle）
- ・岡山英雄、「小羊の王国」（いのちのことば社）
- ・岡山英雄、「ヨハネの黙示録注解」（いのちのことば社）
- ・N.T.ライト、「驚くべき希望」（あめんどう）



総務局 相談室 ハラスメント・牧会相談窓口HP

<https://soudan.jccj.or.jp/>

過去のニュースレターもダウンロードできます。



異端カルト相談窓口HP

<https://cult-soudan.jccj.or.jp/>

